

誰もが“つながる” ～新しい福祉のかたち～

多世代共生型施設のオープンにむけて ～Vol.4～

気持ちがつながる、笑顔がつながる、地域社会につながる
「誰もが“つながる”多世代共生型施設」をコンセプトに
 新しい福祉のかたちを追求し、地域共生社会を実現します。



Webはこちらから

多世代共生型施設は、子どもから高齢者、また障がいの有無に関わらず、丸ごと誰もがつながり、支え合うことで生きがいを持って安心して暮らすことができる地域社会をつくりだすものです。

今号では、その中の一つの機能である「保育園」についてご紹介します。

「保育園」とは

保育園は、保護者が日中お子さんの保育ができないとき、保護者に代わってお子さんをお預かりするところです。

子どもの健やかな育ちを支える場所であるとともに、保護者の育児相談の場所となり、共働して子育てを担う役割を果たしています。



めざす多世代共生型施設内の保育園のあり方

- 子ども一人ひとりに寄り添い、持っている能力を最大限に引き出します。
- 併設する児童発達支援センターと密接に連携することで、「誰一人取り残さない」というSDGs（持続可能な開発目標）の理念を体現します。
- 併設する養護老人ホームや生活介護事業所との日常的な交流を通じて、他者を思いやる豊かな心を育みます。
- 保護者が抱える子どもの成長や発達に関する不安に、保育士はじめ、臨床心理士、社会福祉士等の専門職が連携し対応します。
- さらに、社協の強力なパートナーである地域の方々（民生委員さん、主任児童委員さん、ボランティア、NPOの方々等）とも一緒になって寄り添い、地域で安心して子育てができる環境をつくりまします。

山崎乳児保育所の「社協運営」がスタート！

桑名市との事業譲渡契約に基づき、令和3年4月1日から公立でなく、社協が経営する初の保育園として生まれ変わりました。

